

令和5年度

掛川市・袋井市病院企業団  
病院事業会計決算審査意見書

掛川市・袋井市病院企業団監査委員



掛袋病企監第1号  
令和6年6月28日

掛川市・袋井市病院企業団  
企業長 宮地正彦様

掛川市・袋井市病院企業団

監査委員 山下一夫

監査委員 久永豊彦

令和5年度掛川市・袋井市病院企業団病院事業会計  
決算の審査意見について

地方公営企業法第30条第2項の規定により審査に付された令和5年度掛川市・袋井市病院企業団病院事業会計決算及び附属書類を審査したので、次のとおり意見を提出する。



## 目 次

第 1	審査の対象	-----	1
第 2	審査の期間	-----	1
第 3	審査の方法	-----	1
第 4	審査の結果及び意見	-----	1
	1 審査の結果	-----	1
	2 審査の意見	-----	2
第 5	決算の概要	-----	3
	1 業務の執行状況	-----	3
	2 予算の執行状況	-----	6
	3 経営成績の状況	-----	9
	4 財政の状態	-----	16
	5 未処分利益剰余金の処理	-----	17
第 6	キャッシュ・フロー計算書	-----	18
第 7	参考資料（附表 1～3）	-----	20

### 注 記

- 1 金額は、原則として千円単位で表示し、単位未満は百円単位を四捨五入したため、合計と内訳の計が一致しない場合がある。
- 2 比率（％）は、原則として小数点以下第 2 位を四捨五入したため、構成比の合計と内訳の計が一致しない場合又は決算書その他の書類と一致しない場合がある。なお、99.95%～99.99%の場合は、99.9%と表示した。
- 3 各表中の符号の用法は、次のとおりである。
  - (1) マイナスは「△」と表示した。
  - (2) 該当数値のないものは「－」と表示した。
  - (3) 該当数値はあるが、単位未満のものは「0.0」と表示した。

# 令和5年度掛川市・袋井市病院企業団 病院事業会計決算審査意見

## 第1 審査の対象

令和5年度 掛川市・袋井市病院企業団病院事業会計決算

## 第2 審査の期間

令和6年5月22日から同年6月28日まで

## 第3 審査の方法

掛川市・袋井市病院企業団企業長から審査に付された決算書及び附属書類について、財務会計上の合計上の合規性の検証に加え、事務事業が経済的かつ効率的に執行されているか等に主眼を置き、通常実施すべき審査手続を実施した。

また、計数の確認、関係諸帳簿との照合等を行うとともに、関係職員の説明を聴取した。

## 第4 審査の結果及び意見

### 1 審査の結果

審査に付された当年度の決算書及び附属書類は、いずれも関係法令に準拠して作成されており、関係諸帳簿及び証拠書類といずれも符合し、適正であると認められた。

#### (1) 業務実績

1日平均入院患者数は、前年度比2.3人(0.6%)増の389.4人となり、病床利用率は、前年度比0.5ポイント増の77.9%となった。また、1日平均外来患者数は、前年度比0.5人増の1,154.4人となった。

患者1人当たりの診療単価は、入院が前年度比3,255円増の7万6,170円、外来が前年度比597円増の1万8,026円となった。主な増加要因は、手術件数の増加、がん患者に対する化学療法の増加等である。また、医師1人当たりの診療単価は、前年度比2万8,781円増の47万945円となった。

#### (2) 経営成績

医業収益は、入院・外来患者数の増加、診療単価の増加により、前年度比7億3,718万5千円(4.5%)増の170億3,612万1千円となった。

一方、医業費用は、薬品費等が増加したものの、退職給付費や光熱水費等の減少により、ほぼ前年度並みの181億6,377万5千円となった。その結果、医業損益は、11億2,765万3千円の損失となった。

経常損益は、収益188億4,379万7千円に対し、費用は191億4,822万円となり、経常損失は3億442万3千円となった。これに特別利益1,183万3千円を加え、過年度損益修正損による特別損失1,265万7千円を差し引いた当年度純損失は、3億524万7千円となり、当年度未処分利益剰余金は、46億9,618万2千円となった。なお、経常損失が生じた主な要因は、新型コロナウイルス感染症関連の補助金が前年度比22億6,558万9千円減の1億6,634万円となったことによる。

### (3) 財政状態

本年度末の資産合計は、前年度比3億8,245万3千円(1.5%)減の255億9,836万4千円となった。これは、主に未収金等の減少によるものである。負債合計は、前年度比1億214万5千円(0.5%)減の194億2,886万4千円となった。うち企業債は、前年度比5億5,234万8千円の減で、未償還残高は134億2,739万円となった。資本合計は、当年度純損失の発生により、前年度比2億8,030万8千円減の61億6,950万円となった。

## 2 審査の意見

令和5年度は、新型コロナウイルス感染症が感染法上の5類に移行され、コロナ禍以前の状態を徐々に取り戻しつつある1年であった。しかし、1日当たりの平均患者数は、入院が389.4人、外来が1,154.4人で、いずれも前年度から増加したものの、コロナ禍以前の水準には達していない。

本年度の決算状況は、医業収益が前年度から約4.5%増加し、医業費用はほぼ前年度並みとなり、医業損失は前年度比7億6,482万2千円減の11億2,765万3千円となった。また、経常損益と純損益ともに赤字となった。これらは主に、新型コロナ関連補助金の大部分が終了したことによるところが大きい。コロナ禍以前からの厳しい経営状況を浮き彫りにしたものとなった。

本年度は、敷地内薬局の開局に伴う薬剤師の負担軽減や、医師の働き方改革推進プロジェクト会議による労働環境の向上や時間外勤務の削減に向けた取組を開始したことは高く評価したい。今後も、職員の労働環境の改善に努め、持続可能な医療提供体制を維持していただきたい。

最後に、中東遠総合医療センターは、開院から11年が経過した。令和5年4月には、地域がん診療連携拠点病院の指定を受け、10月には緩和ケア病床が開設された。また、病院整備計画に基づき、新棟の建設等が予定されており、病院機能のさらなる充実と収益性の向上が期待できる反面、建設のための多額の支出も見込まれる。今後も、医業収益の増加と経費節減を図り、安定的で健全な病院経営と、より質の高い医療サービスの提供を実現させ、中東遠地域における地域医療の基幹的な役割を果たされることを強く期待する。

## 第5 決算の概要

### 1 業務の執行状況（第2条関係）

#### (1) 病床の利用状況

区 分	令和5年度	令和4年度	比較増減	令和4年度県平均
病床数(床)	500	500	0	348
病床利用率(%)	77.9	77.4	0.5	77.9
平均在院日数(日)	9.1	9.4	△0.3	15.9

(注)

- 1 病床数は500床、病床利用率は77.9%で、前年度から0.5ポイント増加した。増加要因は、開業医からの紹介件数増により外来患者数が増加したことに伴い、入院適応が増加したことによる。
- 2 平均在院日数は9.1日で、前年度から0.3ポイント減少した。減少要因は、新型コロナウイルス感染拡大防止のための一定期間の入院を要する患者が減少したことによる。

#### (2) 患者数の状況

(単位：人、%)

区 分	令和5年度			令和4年度	増 減	
	当初予定数	補正後	実績 ①	実績 ②	①－②	伸び率
延べ入院患者数 (診療実日数)	150,060 (366日)	- (-日)	142,528 (366日)	141,307 (365日)	1,221 (1日)	0.9
延べ外来患者数 (診療実日数)	279,450 (243日)	- (-日)	280,514 (243日)	280,394 (243日)	120 (0日)	0.0
一日平均入院患者数	410.0	-	389.4	387.1	2.3	0.6
一日平均外来患者数	1,150.0	-	1,154.4	1,153.9	0.5	0.0

(注)

- 1 延べ入院患者数は、前年度から1,221人増の142,528人となった。増加要因は、新型コロナウイルスが5類に区分されたことにより診療制限が緩和され、受入病床が増加したことによる。
- 2 延べ外来患者数は、前年度から120人増の280,514人となった。
- 3 患者数の多い診療科は、入院では、整形外科19,027人、循環器内科17,907人、内科16,319人、外来では、内科43,501人、整形外科19,732人、眼科18,691人であった。
- 4 患者数が増加した主な診療科は、入院では、脳神経内科、皮膚科・皮膚腫瘍科及び泌尿器科で、外来では、リハビリテーション科、循環器内科及び消化器内科であった。



(参考資料)

地域別延べ患者数 (入院・外来)

入 院

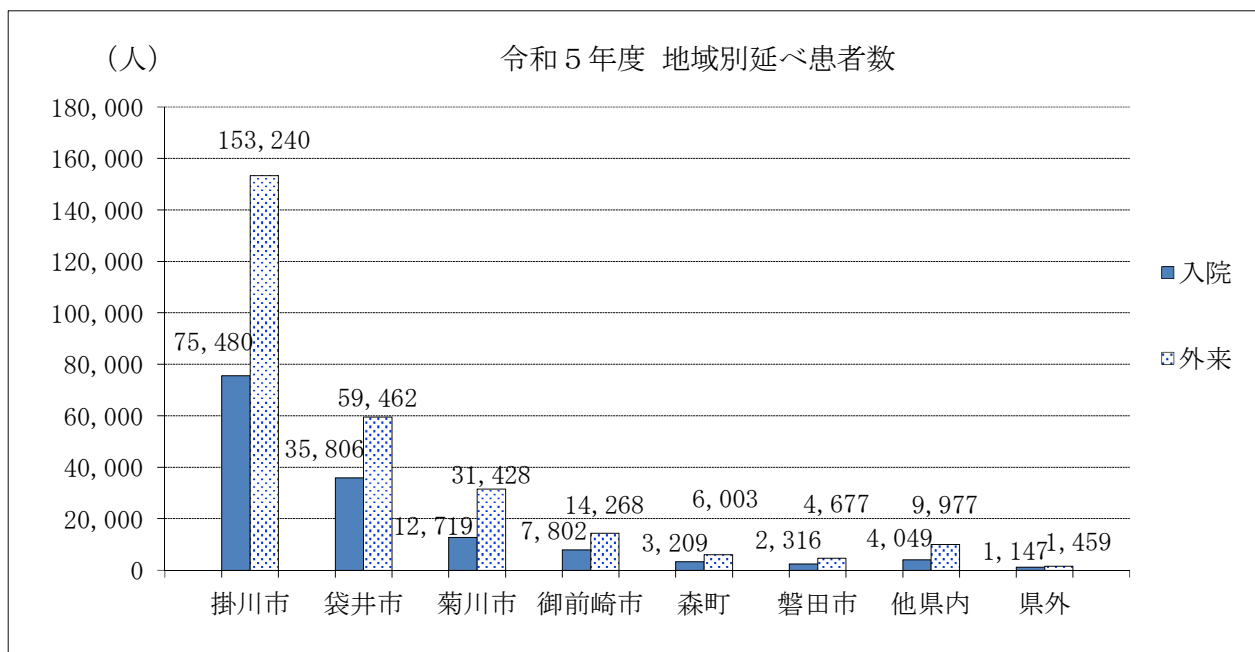
(単位：人)

	掛川市	袋井市	菊川市	御前崎市	森町	磐田市	他県内	県外	計
令和5年度	75,480	35,806	12,719	7,802	3,209	2,316	4,049	1,147	142,528
令和4年度	72,705	37,602	11,558	6,356	3,958	2,859	4,765	1,504	141,307
増 減	2,775	△1,796	1,161	1,446	△749	△543	△716	△357	1,221
伸び率	3.8	△4.8	10.0	22.8	△18.9	△19.0	△15.0	△23.7	0.9

外 来

(単位：人)

	掛川市	袋井市	菊川市	御前崎市	森町	磐田市	他県内	県外	計
令和5年度	153,240	59,462	31,428	14,268	6,003	4,677	9,977	1,459	280,514
令和4年度	153,615	59,861	30,090	13,928	6,497	4,913	9,910	1,580	280,394
増 減	△375	△399	1,338	340	△494	△236	67	△121	120
伸び率	△0.2	△0.7	4.4	2.4	△7.6	△4.8	0.7	△7.7	0.0



(3) 建設改良の執行状況（消費税含む）

ア 施設改良費	予算額	2億3,738万円
	決算額	2億3,738万円

〔主な施設改良費〕

・施設管理室ほか火災復旧工事	1億2,386万円
・病児保育室増築工事	4,499万円

イ 資産購入費	予算額	6億6,234万円
	決算額	6億2,151万5千円

〔主な有形固定資産〕

器械備品

・血管撮影装置	1億280万6千円
・検体検査分注・搬送自動化システム	9,889万円
・ダヴィンチコンソール	5,500万円
・採血管準備システム	4,389万円
・透析装置	2,567万4千円
・質量分析計	1,998万7千円

## 2 予算の執行状況（消費税含む）

### (1) 収益的収入及び支出（第3条関係）

#### ア 収益的収入の執行状況

（単位：千円、％）

区 分	予 算 額		決 算 額	執 行 率	増 減 額
	当 初	現 額			
第1款 病院事業収益	19,157,391	19,371,249	18,932,425	97.7	△438,824
第1項 医業収益	17,462,072	17,462,072	17,108,827	98.0	△353,245
第1目 入院収益	11,254,500	11,254,500	10,857,195	96.5	△397,305
第2目 外来収益	5,030,100	5,030,100	5,060,282	100.6	30,182
第3目 その他医業収益	846,513	846,513	809,916	95.7	△36,597
第4目 他会計負担金	330,959	330,959	381,434	115.3	50,475
第2項 医業外収益	1,695,318	1,907,706	1,811,765	95.0	△95,941
第3項 特別利益	1	1,471	11,833	804.4	10,362

（注）

- 1 病院事業収益は、予算現額193億7,124万9千円に対し、決算額は、4億3,882万4千円減の189億3,242万5千円で、執行率は、97.7%となった。
- 2 医業収益は、予算現額174億6,207万2千円に対し、入院収益が3億9,730万5千円の減、外来収益が3,018万2千円の増、他会計負担金が5,047万5千円の増で、総額で3億5,324万5千円の減となった。
- 3 医業外収益は、予算現額19億770万6千円に対し、決算額は、9,594万1千円減の18億1,176万5千円であった。
- 4 特別利益の主なものは、過年度分診療報酬の修正額等である。

#### イ 収益的支出の執行状況

（単位：千円、％）

区 分	予 算 額		決 算 額	執 行 率	不 用 額
	当 初	現 額			
第1款 病院事業費用	19,379,011	19,616,967	19,217,999	98.0	398,968
第1項 医業費用	18,536,622	18,783,478	18,426,657	98.1	356,821
第2項 医業外費用	799,813	790,913	778,685	98.5	12,228
第3項 特別損失	37,576	37,576	12,657	33.7	24,919
第4項 予備費	5,000	5,000	0	0	5,000

（注）

- 1 病院事業費用は、予算現額196億1,696万7千円に対し、決算額は、192億1,799万9千円で、3億9,896万8千円の不用額が生じ、執行率は、98.0%となった。
- 2 特別損失の主なものは、過年度損益修正損等である。
- 3 不用額の主なものは、次のとおりである。

（医業費用）

- ・材料費 1億799万円
- ・経費 1億3,455万5千円

（医業外費用）

- ・院内保育園運営費 626万7千円

## (2) 資本的収入及び支出 (第4条関係)

### ア 資本的収入の執行状況

(単位：千円、%)

区 分	予 算 額		決 算 額	執 行 率	増 減 額
	当 初	現 額			
第1款 資本的収入	1,468,928	1,261,243	1,237,525	98.1	△23,718
第1項 企業債	835,300	500,000	445,500	89.1	△54,500
第2項 負担金	625,357	625,357	668,311	106.9	42,954
第3項 補助金	1	2,286	2,286	100.0	0
第4項 貸付資金返還金	8,268	9,738	8,862	91.0	△876
第5項 寄附金	1	1	0	0	△1
第6項 固定資産売却代金	1	1	0	0	△1
第7項 保険金	0	123,860	112,566	90.9	△11,294

(注)

- 1 資本的収入は、予算現額12億6,124万3千円に対し、決算額は、2,371万8千円減の12億3,752万5千円で、執行率は、98.1%となった。
- 2 企業債は、予算現額5億円に対し、決算額は、5,450万円減の4億4,550万円であった。
- 3 負担金は、予算現額6億2,535万7千円に対し、決算額は、4,295万4千円増の6億6,831万1千円であった。

### イ 資本的支出の執行状況

(単位：千円、%)

区 分	予 算 額		決 算 額	執 行 率	翌年度繰越額	不 用 額
	当 初	現 額				
第1款 資本的支出	2,050,105	1,902,239	1,858,754	97.7	0	43,485
第1項 建設改良費	1,045,276	899,720	858,895	95.5	0	40,825
第2項 企業債償還金	1,000,509	1,000,509	997,848	99.7	0	2,661
第3項 投資	4,320	2,010	2,010	100.0	0	0

(注)

- 1 資本的支出は、予算現額19億223万9千円に対し、決算額は、18億5,875万4千円で、4,348万5千円の不用額が生じ、執行率は、97.7%となった。
- 2 建設改良費のうち、施設改良費の主なものは施設管理室ほか火災復旧工事、病児保育室増築工事、資産購入費の主なものは血管撮影装置、検体検査分注・搬送自動化システム、ダヴィンチコンソールであった。
- 3 投資の支出内容は、看護学生修学資金貸付金である。

### ウ 資本的収支の補填状況

資本的収入が資本的支出に不足する額6億2,122万8千円は、次の資金で補填されている。

- ・当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額 358万円
- ・過年度分損益勘定留保資金 6億1,764万8千円

(3) 企業債の発行と償還状況 (第6条関係)

(単位：千円、%)

区 分	前年度末残高	本年度借入額	本年度借入利率	本年度償還額	本年度末残高
企 業 債	13,979,738	445,500	0.145	997,848	13,427,390

(注) 本年度は、4億4,550万円を借り入れ、9億9,784万8千円を償還し、未償還残高は134億2,739万円となった。借入限度額は、医療機器等整備事業5億円、借入利率は、年5.0%以内と定められており、いずれも範囲内であった。

(4) 一時借入金 (第7条関係)

一時借入金の限度額は15億円であるが、本年度は一時借入金は発生していない。

(5) 議会の議決を要する経費の流用 (第9条関係)

職員給与費及び交際費は、議会の議決を経なければ流用することのできない経費であるが、本年度の流用はなかった。

(6) たな卸資産 (第10条関係)

たな卸資産の購入限度額は47億6,393万7千円であるが、購入額は46億1,467万2千円であり、限度額の範囲内であった。

(内訳)

- ・ 薬品 26億4,807万3千円
- ・ 診療材料 19億6,659万9千円

### 3 経営成績の状況（消費税除く）

#### (1) 経営収支の状況

(単位：千円、%)

区 分		令和5年度		令和4年度		増減額	伸び率	
		金額	構成比	金額	構成比			
経 常 収 支	経 常 収 益	医業収益 (1)	17,036,121	90.4	16,298,937	80.5	737,185	4.5
		入院収益	10,856,358	57.6	10,303,406	50.9	552,952	5.4
		外来収益	5,056,498	26.8	4,887,051	24.1	169,448	3.5
		その他医業収益	741,831	3.9	729,658	3.6	12,173	1.7
		他会計負担金 (a)	381,434	2.0	378,822	1.9	2,612	0.7
	医 業 外 収 益	医業外収益 (2)	1,807,676	9.6	3,944,417	19.5	△2,136,741	△54.2
		補助金	259,375	1.4	2,491,131	12.3	△2,231,756	△89.6
		負担金交付金	676,365	3.6	682,754	3.4	△6,389	△0.9
		長期前受金戻入	440,115	2.3	394,832	2.0	45,282	11.5
	計 (A)		18,843,797	100.0	20,243,354	100.0	△1,399,556	△6.9
	経 常 費 用	医業費用 (3)	18,163,775	94.9	18,191,412	94.9	△27,637	△0.2
		給与費	9,940,182	51.9	10,089,583	52.6	△149,401	△1.5
		材料費	4,351,291	22.7	4,195,971	21.9	155,320	3.7
経費		2,554,391	13.3	2,562,668	13.4	△8,277	△0.3	
減価償却費		1,213,057	6.3	1,246,403	6.5	△33,346	△2.7	
医業外費用 (4)		984,446	5.1	972,349	5.1	12,096	1.2	
支払利息及び 企業債取扱諸費		198,319	1.0	206,615	1.1	△8,296	△4.0	
雑損失	676,735	3.5	653,498	3.4	23,238	3.6		
計 (B)		19,148,220	100.0	19,163,761	100.0	△15,541	△0.1	
特 別 収 支	特別利益 (5)	11,833	-	10,721	-	1,112	10.4	
	特別損失 (6)	12,657	-	25,646	-	△12,989	△50.6	
医業損益 (1)-(3) = (C)		△1,127,653	-	△1,892,475	-	764,822	-	
修正医業損益{(1)-(a)}-(3)		△1,509,087	-	△2,271,297	-	762,210	-	
経常損益 (A) - (B) = (D)		△304,423	-	1,079,593	-	△1,384,015	-	
当年度純損益 (D) + (5) - (6) = (E)		△305,247	-	1,064,668	-	△1,369,915	-	
前年度繰越利益剰余金 (F)		5,001,429	-	3,936,761	-	1,064,668	-	
当年度未処分利益剰余金 (E) + (F)		4,696,182	-	5,001,429	-	△305,247	-	
総収支比率 (A)+(5) / (B)+(6)		98.4		105.5		△7.1		
医業収支比率 (1)/(3)		93.8		89.6		4.2		
修正医業収支比率 {(1)-(a)}/(3)		91.7		87.5		4.2		

(注)

- 1 医業収益は、前年度比7億3,718万5千円増の170億3,612万1千円となった。医業費用は、材料費が増加したものの、給与費等の減によりほぼ前年度並みとなった。
- 2 医業損益は、前年度比7億6,482万2千円改善し、11億2,765万3千円の損失となった。
- 3 経常損益は、前年度比13億8,401万5千円減の3億442万3千円の損失となった。主な減少要因は、新型コロナウイルス関連補助金の減少による。
- 4 経常損益に特別利益を加え、特別損失を差し引いた当年度純損失は、3億524万7千円となった。
- 5 当年度純損益に前年度繰越利益剰余金を加えた当年度未処分利益剰余金は、46億9,618万2千円となった。
- 6 医療業務活動の効率効果を測定する医業収支比率は、前年度比4.2ポイント増の93.8%となった。
- 7 医業収支比率から他会計負担金を除いた修正医業収支比率は、前年度比4.2ポイント増の91.7%となった。

## (参考資料)

## 経常収支と繰入金決算額の推移

(単位：千円、%)

区 分	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	前年度 比較増減
経常収益	16,700,332	18,611,201	22,519,492	20,243,354	18,843,797	△1,399,556
うち医業収益①	15,352,792	14,584,258	16,017,025	16,298,937	17,036,121	737,185
経常費用	17,114,757	17,378,088	18,233,532	19,163,761	19,148,220	△15,541
うち医業費用②	16,250,271	16,491,106	17,298,366	18,191,412	18,163,775	△27,637
医業損益 ①－②	△897,479	△1,906,848	△1,281,342	△1,892,475	△1,127,653	764,822
経常損益	△414,425	1,233,113	4,285,960	1,079,593	△304,423	△1,384,015

両市からの繰入金(3条)	1,007,589	1,029,620	1,039,679	1,061,576	1,057,799	△3,777
繰入金を除く経常損益	△1,422,014	203,493	3,246,281	18,017	△1,362,222	△1,380,239
繰入金/経常収益(%)	6.0	5.5	4.6	5.2	5.6	0.4

## 両市からの繰入金決算額の推移

(単位：千円)

区 分	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	前年度 比較増減	
両市からの繰入金	1,726,110	1,726,110	1,726,110	1,726,110	1,726,110	0	
内	収益的収入 (3条)	1,007,589	1,029,620	1,039,679	1,061,576	1,057,799	△3,777
	掛川市	591,033	604,447	610,521	622,450	618,595	△3,855
	袋井市	416,556	425,173	429,158	439,126	439,204	78
訳	資本的収入 (4条)	718,521	696,490	686,431	664,534	668,311	3,777
	掛川市	430,791	417,115	410,630	397,155	398,229	1,074
	袋井市	287,730	279,375	275,801	267,379	270,082	2,703

(注) 次の経費は、地方公営企業法等により地方公共団体が負担することができることとされている。

- ・その性質上経営に伴う収入をもって充てることが適当でない経費

(例) 救急医療の確保、保健衛生行政事務に要する経費 など

- ・病院事業の性質上、能率的な経営を行っても、なおその経営に伴う収入のみをもって充てることが、客観的に困難であると認められる経費

(例) 病院の建設改良に要する経費、高度医療の経費 など

(2) 医業収益の状況

ア 患者の1人・1日当たりの診療収入（診療単価）

入院

算式	令和5年度		令和4年度		比較増減
入院収益(千円)	10,856,358	76,170 円	10,303,406	72,915 円	3,255 円
年延入院患者数(人)	142,528		141,307		

外来

算式	令和5年度		令和4年度		比較増減
外来収益(千円)	5,056,498	18,026 円	4,887,051	17,429 円	597 円
年延外来患者数(人)	280,514		280,394		

(注) 診療単価は、入院が前年度比3,255円の増、外来が前年度比597円の増となった。

イ 医師及び看護師の1人・1日当たりの診療収入（診療単価）

医師

算式		令和5年度		令和4年度		比較増減
入院	入院収益(千円)	10,856,358	276,800 円	10,303,406	258,205 円	18,595 円
	年延医師数(人)	39,221		39,904		
外来	外来収益(千円)	5,056,498	194,145 円	4,887,051	183,959 円	10,186 円
	年延医師数(人)	26,045		26,566		
入院+外来		470,945 円		442,164 円		28,781 円

(注) 入院、外来を合計した医師1人当たりの診療単価は、前年度比2万8,781円の増となった。

看護師

算式		令和5年度		令和4年度		比較増減
入院	入院収益(千円)	10,856,358	53,221 円	10,303,406	51,755 円	1,466 円
	年延看護師数(人)	203,985		199,079		
外来	外来収益(千円)	5,056,498	37,332 円	4,887,051	36,875 円	457 円
	年延看護師数(人)	135,446		132,531		
入院+外来		90,553 円		88,630 円		1,923 円

(注) 入院、外来を合計した看護師1人当たりの診療単価は、前年度比1,923円の増となった。

ウ 職員1人当たりの医業収益（年間）

算式	令和5年度		令和4年度		比較増減
医業収益(千円)	17,036,121	18,066 千円	16,298,937	17,564 千円	502 千円
損益勘定職員数(人)	943		928		

(注)

- 職員数には、特別職である企業長を含む。
- 職員1人当たりの医業収益は、前年度比50万2千円の増となった。



エ 入院外来収益内訳表

(単位：千円、%)

区 分	令和5年度		令和4年度		増減額	伸び率	
	金 額	構成比	金 額	構成比			
入 院	入 院 料	4,991,083	46.0	4,759,396	46.2	231,687	4.9
	処置・手術	3,008,855	27.7	2,954,508	28.7	54,347	1.8
	検 査	582,114	5.4	610,288	5.9	△28,174	△4.6
	注 射	450,466	4.1	369,574	3.6	80,892	21.9
	放 射 線	268,729	2.5	255,976	2.5	12,753	5.0
	給 食	230,734	2.1	221,294	2.1	9,440	4.3
	投 薬	120,045	1.1	107,163	1.0	12,882	12.0
	そ の 他	1,204,332	11.1	1,025,207	10.0	179,125	17.5
	計	10,856,358	100.0	10,303,406	100.0	552,952	5.4
外 来	注 射	1,567,477	31.0	1,431,823	29.3	135,653	9.5
	検 査	995,620	19.7	1,029,294	21.1	△33,674	△3.3
	放 射 線	786,813	15.6	741,132	15.2	45,681	6.2
	処置・手術	531,544	10.5	555,777	11.4	△24,233	△4.4
	再 診 料	157,138	3.1	151,201	3.1	5,937	3.9
	初 診 料	82,934	1.6	84,289	1.7	△1,355	△1.6
	投 薬	78,110	1.5	88,940	1.8	△10,830	△12.2
	そ の 他	856,862	16.9	804,595	16.5	52,267	6.5
	計	5,056,498	100.0	4,887,051	100.0	169,448	3.5
入院・外来 計	15,912,856	-	15,190,457	-	722,399	4.8	

(注)

- 1 入院収益は、手術件数や高額薬剤の使用の増加等により、前年度比5億5,295万2千円(5.4%)増の108億5,635万8千円となった。
- 2 外来収益は、がん患者に対する化学療法の増加等により、前年度比1億6,944万8千円(3.5%)増の50億5,649万8千円となった。

オ その他医業収益の状況

(単位：千円、%)

区 分	令和5年度	令和4年度	増減額	伸び率
医療相談収益	446,769	432,768	14,001	3.2
公衆衛生活動収益	173,664	176,628	△2,964	△1.7
室料差額収益	38,505	36,577	1,928	5.3
受託検査施設利用収益	1,887	1,793	94	5.2
その他医業収益	81,006	81,892	△886	△1.1
合 計	741,831	729,658	12,173	1.7

(注) その他医業収益の主なものは、次のとおりである。

・医療相談収益	
・人間ドック（日帰り 13,194件、1泊 14件）	4億2,880万5千円
・脳ドック（263件）	776万7千円
・PETがん検診（44件）	320万円
・公衆衛生活動収益	
・一般健康診断	5,106万9千円
・妊産婦健診	2,954万6千円
・予防接種	2,175万3千円
・その他医業収益	
・文書料	3,913万2千円
・新生児介補料	956万円
・病衣使用料	916万1千円

### (3) 医業費用の状況

#### ア 給与費の状況

(単位：千円、%)

区 分	令和5年度	令和4年度	増減額	伸び率
医業収益 ①	17,036,121	16,298,937	737,185	4.5
医業費用 ②	18,163,775	18,191,412	△27,637	△0.2
給与費 ③	9,940,182	10,089,583	△149,401	△1.5
うち退職給付費	475,737	672,143	△196,406	△29.2
対医業収益比 (③÷①)	58.3	61.9	-	-
対医業費用比 (③÷②)	54.7	55.5	-	-

(注)

- 1 対医業収益比は、前年度から3.6ポイント下がり、58.3%となった。
- 2 給与費が前年度から1.5%減少した要因は、新型コロナウイルス感染症患者への対応に係る防疫手当の減少や定年延長に伴う退職給付費の減少等による。

#### (7) 職員数の状況 (各年度3月31日現在)

(単位：人)

	医師	医療技術員	看護師	事務部門	技能労務部門	計	会計年度任用職員	合計
令和5年度	106	194	548	69	26	943	273	1,216
令和4年度	110	182	545	65	26	928	280	1,208
増 減	△4	12	3	4	0	15	△7	8

(注) 職員数は、医療技術員12人、看護師3人、事務職員4人が増員となり、全体では8人の増員となった。

#### (イ) 医師の推移 (年間平均在職者数)

(単位：人)

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	前年度比較増減
医師年間平均在職者数	98.7	101.2	103.3	109.3	107.2	△2.1

(注) 医師の年間平均在職者数は、前年度から2.1人減少し、107.2人となった。

## イ 材料費の状況

(単位：千円、%)

	令和5年度		令和4年度		増減額
	金額	構成比	金額	構成比	
材料費	4,351,291	100.0	4,195,971	100.0	155,320
薬品費	2,503,198	57.5	2,353,729	56.1	149,469
診療材料費	1,805,630	41.5	1,795,955	42.8	9,675
医療消耗備品費	36,842	0.8	40,582	1.0	△3,740
給食材料費	5,621	0.1	5,705	0.1	△85

(注) 材料費は、前年度比1億5,532万円増の43億5,129万1千円となった。主な増加要因は、高額な薬剤を使用する患者の増加による薬品費の増、物価高騰による診療材料の値上げ等である。

## ウ 経費の状況

(単位：千円、%)

	令和5年度		令和4年度		増減額
	金額	構成比	金額	構成比	
経費	2,554,391	100.0	2,562,668	100.0	△8,277
委託料	1,508,277	59.0	1,470,426	57.4	37,852
賃借料	351,372	13.8	332,202	13.0	19,170
光熱水費	226,699	8.9	275,827	10.8	△49,128
負担金	87,858	3.4	101,707	4.0	△13,849
その他	380,184	14.9	382,506	14.9	△2,322

(注)

- 1 経費は、25億5,439万1千円で、委託料や賃借料等が増加したものの、光熱水費等が減少したため、ほぼ前年度並みとなった。
- 2 主な委託業務は、次のとおりである。
  - ・ 医療機器保守業務 3億496万6千円
  - ・ 医事業務 2億7,442万3千円
  - ・ 給食業務 2億955万4千円
  - ・ 施設設備保守業務 1億9,579万7千円

#### 4 財政の状態

(単位：千円、%)

区 分		令和5年度		令和4年度		増減額	伸び率
		金額	構成比	金額	構成比		
資 産	固定資産	14,292,065	55.8	13,217,754	50.9	1,074,311	8.1
	流動資産	11,306,299	44.2	12,763,063	49.1	△1,456,764	△11.4
資産合計		25,598,364	100.0	25,980,817	100.0	△382,453	△1.5
負 債	固定負債	15,361,606	60.0	15,547,887	59.8	△186,281	△1.2
	流動負債	2,953,769	11.5	2,960,997	11.4	△7,227	△0.2
	繰延収益	1,113,489	4.3	1,022,126	3.9	91,364	8.9
	計	19,428,864	75.9	19,531,009	75.2	△102,145	△0.5
資 本	資本金	1,302,075	5.1	1,302,075	5.0	0	0
	剰余金	4,867,425	19.0	5,147,733	19.8	△280,308	△5.4
	資本剰余金	171,243	0.7	146,304	0.6	24,939	17.0
	利益剰余金	4,696,182	18.3	5,001,429	19.3	△305,247	△6.1
	計	6,169,500	24.1	6,449,807	24.8	△280,308	△4.3
負債資本合計		25,598,364	100.0	25,980,817	100.0	△382,453	△1.5

##### (1) 資産の状態

資産合計は、前年度比3億8,245万3千円減の255億9,836万4千円となった。

##### 【主な増減項目】

- ・有形固定資産（減価償却の実施による）

建物 85億4,989万1千円 (3億5,553万円減)

- ・無形固定資産

ソフトウェア 2億3,230万1千円 (1億6,361万5千円減)

- ・投資等

投資有価証券 14億6,966万4千円 (皆増)

- ・流動資産

現金預金 84億2,978万8千円 (9億2,161万2千円減)

未収金 25億5,129万3千円 (5億1,763万7千円減)

##### 貯蔵品回転率

(単位：円、回)

算 式	令和5年度		令和4年度		比 較
$\frac{\text{期首貯蔵} + \text{当年度購入} - \text{期末貯蔵}}{(\text{期首貯蔵} + \text{期末貯蔵}) \div 2}$	4,365,925,145	15.1	4,206,601,740	14.7	0.4
	288,259,989		285,560,516		

(注) 貯蔵品回転率は、前年度比0.4回増の15.1回となった。

## (2) 負債の状態

負債合計は、前年度比1億214万5千円減の194億2,886万4千円となった。

### 【主な増減項目】

#### ・固定負債

企業債	123億9,320万1千円	(5億8,868万9千円減)
引当金	29億6,840万5千円	(4億240万7千円増)

#### ・流動負債

未払金	13億6,560万3千円	(9,023万円減)
-----	--------------	------------

## (3) 資本の状態

資本金は、前年度と同額の13億207万5千円となった。

資本剰余金は、前年度比2,493万9千円増の1億7,124万3千円となった。

利益剰余金は、前年度繰越利益剰余金50億142万9千円から当年度純損失3億524万7千円を差し引き、46億9,618万2千円となった。

資本金と剰余金を合わせた資本合計は、前年度比2億8,030万8千円減の61億6,950万円となった。

## 5 未処分利益剰余金の処理

当年度未処分利益剰余金46億9,618万2千円については、全額を繰越利益剰余金として次年度に繰り越した。

## 第6 キャッシュ・フロー計算書

### 1 業務活動によるキャッシュ・フロー

(単位：千円)

項 目	令和5年度	令和4年度	増 減
1 当年度純損益	△305,247	1,064,668	△1,369,915
2 減価償却費	1,213,057	1,246,403	△33,346
3 固定資産除却費	10,269	19,863	△9,594
4 火災による損失	0	14,796	△14,796
5 固定資産売却損	0	141	△141
6 固定資産売却益	0	△238	238
7 長期貸付金貸倒引当金の増減額	△1,470	15,270	△16,740
8 長期前払消費税勘定償却	21,960	19,422	2,539
9 長期前受金戻入額	△445,981	△399,921	△46,059
10 資本費繰入収益	△220,880	△278,582	57,702
11 受取利息及び受取配当金	△6,872	△87	△6,785
12 償却原価法による受取利息	△909	0	△909
13 支払利息	198,319	206,615	△8,296
14 未収金の増減額	497,085	△84,171	581,256
15 たな卸資産の増減額	21,131	△26,530	47,660
16 前払費用の増減額	3,703	1,081	2,621
17 前払金の増減額	△7,319	△270	△7,049
18 退職給付引当金の増減額	402,407	359,450	42,958
19 賞与引当金の増減額	37,557	61,286	△23,729
20 法定福利費引当金の増減額	9,105	17,489	△8,384
21 未収金貸倒引当金の増減額	△3,145	△5,585	2,440
22 未払金の増減額	△222,533	6,901	△229,434
小 計	1,200,238	2,238,000	△1,037,762
1 利息及び配当金の受取額	6,872	87	6,785
2 利息の支払額	△198,319	△206,615	8,296
業務活動によるキャッシュ・フロー	1,008,791	2,031,472	△1,022,682

### 2 投資活動によるキャッシュ・フロー

1 有形固定資産の取得による支出	△680,754	△626,624	△54,129
2 有形固定資産の売却による収入	0	274	△274
3 無形固定資産の取得による支出	△42,259	△1,909	△40,350
4 投資有価証券の取得による支出	△1,468,755	0	△1,468,755
5 補助金等による収入	26,133	161,186	△135,053
6 繰入金による収入（他会計負担金）	643,372	639,965	3,407
7 災害による保険金収入	112,566	0	112,566
8 長期貸付金の貸付による支出	△2,010	△660	△1,350
9 長期貸付金の返還による収入	8,712	25,224	△16,512
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,402,994	197,456	△1,600,450

### 3 財務活動によるキャッシュ・フロー

1 建設改良費等の財源に充てるための企業債による収入	445,500	222,200	223,300
2 建設改良費等の財源に充てるための企業債の償還による支出	△997,848	△1,045,441	47,593
3 長期未払金の返済による支出	0	△57,349	57,349
4 繰入金による収入（他会計負担金）	24,939	24,569	370
財務活動によるキャッシュ・フロー	△527,409	△856,021	328,612

資金増減額	△921,612	1,372,907	△2,294,519
-------	----------	-----------	------------

資金期首残高	9,351,400	7,978,493	1,372,907
--------	-----------	-----------	-----------

資金期末残高	8,429,788	9,351,400	△921,612
--------	-----------	-----------	----------

キャッシュ・フロー計算書は、病院事業会計における純損益から、資産の増減を反映させ、減価償却費など、非資金項目を調整した「間接法」で作成し、実質資金収支（キャッシュ・フロー）を示したものである。

なお、本年度の業務活動によるキャッシュ・フローは、10億879万1千円プラス、投資活動によるキャッシュ・フローは、14億299万4千円マイナス、財務活動によるキャッシュ・フローは、5億2,740万9千円マイナスとなった。

以上により、資金期末残高は、84億2,978万8千円となった。



第7 参考資料

附表 1

最近3カ年の入院・外来 診療科別患者数、構成比及びすう勢比率

(単位：人、%)

区 分	入 院				対前年度 差・伸び率	外 来			
	令和3年度	令和4年度	令和5年度	対前年度 差・伸び率		令和3年度	令和4年度	令和5年度	対前年度 差・伸び率
内 科	患者数	13,326	15,871	16,319	448	44,005	46,500	43,501	△2,999
	構成比	9.7	11.2	11.4		16.1	16.6	15.5	
	すう勢比率	100.0	119.1	122.5	2.8	100.0	105.7	98.9	△6.4
脳神経内科	患者数	7,846	7,620	11,238	3,618	10,784	11,642	11,131	△511
	構成比	5.7	5.4	7.9		3.9	4.2	4.0	
	すう勢比率	100.0	97.1	143.2	47.5	100.0	108.0	103.2	△4.4
呼吸器内科	患者数	16,202	12,573	12,055	△518	12,022	11,349	11,080	△269
	構成比	11.8	8.9	8.5		4.4	4.0	3.9	
	すう勢比率	100.0	77.6	74.4	△4.1	100.0	94.4	92.2	△2.4
消化器内科	患者数	9,331	8,862	8,174	△688	11,664	12,951	13,748	797
	構成比	6.8	6.3	5.7		4.3	4.6	4.9	
	すう勢比率	100.0	95.0	87.6	△7.8	100.0	111.0	117.9	6.2
循環器内科	患者数	16,362	18,314	17,907	△407	16,976	14,922	15,754	832
	構成比	11.9	13.0	12.6		6.2	5.3	5.6	
	すう勢比率	100.0	111.9	109.4	△2.2	100.0	87.9	92.8	5.6
外 科	患者数	12,074	14,589	14,247	△342	17,846	18,866	18,571	△295
	構成比	8.8	10.3	10.0		6.5	6.7	6.6	
	すう勢比率	100.0	120.8	118.0	△2.3	100.0	105.7	104.1	△1.6
小児外科	患者数	0	0	0	0	188	153	161	8
	構成比	0	0	0		0.1	0.1	0.1	
	すう勢比率	100.0	-	-	-	100.0	81.4	85.6	5.2
呼吸器外科	患者数	0	0	0	0	252	228	334	106
	構成比	0	0	0		0.1	0.1	0.1	
	すう勢比率	100.0	-	-	-	100.0	90.5	132.5	46.5
整形外科	患者数	18,081	21,243	19,027	△2,216	18,518	20,380	19,732	△648
	構成比	13.1	15.0	13.3		6.8	7.3	7.0	
	すう勢比率	100.0	117.5	105.2	△10.4	100.0	110.1	106.6	△3.2
リウマチ科	患者数	0	0	0	0	371	391	361	△30
	構成比	0	0	0		0.1	0.1	0.1	
	すう勢比率	100.0	-	-	-	100.0	105.4	97.3	△7.7
脳神経外科	患者数	13,361	11,798	11,993	195	5,071	4,657	4,455	△202
	構成比	9.7	8.3	8.4		1.9	1.7	1.6	
	すう勢比率	100.0	88.3	89.8	1.7	100.0	91.8	87.9	△4.3
小 児 科	患者数	4,787	4,527	4,072	△455	16,000	15,627	14,276	△1,351
	構成比	3.5	3.2	2.9		5.8	5.6	5.1	
	すう勢比率	100.0	94.6	85.1	△10.1	100.0	97.7	89.2	△8.6
産婦人科	患者数	7,748	7,181	6,892	△289	15,977	14,855	13,895	△960
	構成比	5.6	5.1	4.8		5.8	5.3	5.0	
	すう勢比率	100.0	92.7	89.0	△4.0	100.0	93.0	87.0	△6.5
泌尿器科	患者数	5,964	6,263	6,965	702	11,100	12,315	12,574	259
	構成比	4.3	4.4	4.9		4.1	4.4	4.5	
	すう勢比率	100.0	105.0	116.8	11.2	100.0	110.9	113.3	2.1
皮膚科・ 皮膚腫瘍科	患者数	2,744	2,474	3,182	708	15,525	16,724	17,246	522
	構成比	2.0	1.8	2.2		5.7	6.0	6.1	
	すう勢比率	100.0	90.2	116.0	28.6	100.0	107.7	111.1	3.1
眼 科	患者数	3,437	3,621	3,196	△425	19,224	20,003	18,691	△1,312
	構成比	2.5	2.6	2.2		7.0	7.1	6.7	
	すう勢比率	100.0	105.4	93.0	△11.7	100.0	104.1	97.2	△6.6
耳 鼻 いんこう科	患者数	3,624	3,578	3,838	260	12,304	13,044	13,620	576
	構成比	2.6	2.5	2.7		4.5	4.7	4.9	
	すう勢比率	100.0	98.7	105.9	7.3	100.0	106.0	110.7	4.4
放 射 線 診 断 科	患者数	18	10	5	△5	7,258	6,873	6,759	△114
	構成比	0.0	0.0	0.0		2.7	2.5	2.4	
	すう勢比率	100.0	55.6	27.8	△50.0	100.0	94.7	93.1	△1.7
麻 酔 科	患者数	21	0	0	0	4,694	4,728	5,278	550
	構成比	0.0	0	0		1.7	1.7	1.9	
	すう勢比率	100.0	-	-	-	100.0	100.7	112.4	11.6
リハビリ テーション科	患者数	40	293	650	357	7,842	9,853	13,765	3,912
	構成比	0.0	0.2	0.5		2.9	3.5	4.9	
	すう勢比率	100.0	732.5	1,625.0	121.8	100.0	125.6	175.5	39.7
歯 科 口腔外科	患者数	1,814	1,957	2,274	317	12,582	12,704	13,209	505
	構成比	1.3	1.4	1.6		4.6	4.5	4.7	
	すう勢比率	100.0	107.9	125.4	16.2	100.0	101.0	105.0	4.0
精 神 科	患者数	0	0	0	0	0	2	1	△1
	構成比	0	0	0		0	0.0	0.0	
	すう勢比率	100.0	-	-	-	100.0	-	-	△50.0
救 急 科	患者数	770	533	494	△39	13,447	11,627	12,372	745
	構成比	0.6	0.4	0.3		4.9	4.1	4.4	
	すう勢比率	100.0	69.2	64.2	△7.3	100.0	86.5	92.0	6.4
計	患者数	137,550	141,307	142,528	1,221	273,650	280,394	280,514	120
	構成比	100.0	100.0	100.0		100.0	100.0	100.0	
	すう勢比率	100.0	102.7	103.6	0.9	100.0	102.5	102.5	0.0

(注) すう勢比率は、令和3年度を基準年度とした。

附表 2

最近3カ年の診療科別収入の構成比と患者1人当たり収入金額（消費税抜き）

区 分		診 療 収 入 (単位:千円、%)							
		令和3年度		令和4年度		令和5年度		対前年度	
		金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比	比較増減	伸び率
内 科	入院	711,296		833,422		932,034		98,612	11.8
	外来	1,009,857		943,989		891,216		△52,772	△5.6
	計	1,721,154	11.5	1,777,411	11.7	1,823,250	11.5	45,839	2.6
脳神経内科	入院	454,718		456,882		685,004		228,122	49.9
	外来	255,058		297,869		330,962		33,093	11.1
	計	709,776	4.7	754,751	5.0	1,015,966	6.4	261,215	34.6
呼吸器内科	入院	972,063		717,430		770,259		52,829	7.4
	外来	433,671		345,717		280,639		△65,078	△18.8
	計	1,405,734	9.4	1,063,147	7.0	1,050,898	6.6	△12,249	△1.2
消化器内科	入院	529,925		537,362		496,864		△40,497	△7.5
	外来	365,515		426,681		411,445		△15,236	△3.6
	計	895,440	6.0	964,043	6.3	908,309	5.7	△55,734	△5.8
循環器内科	入院	1,776,463		1,716,157		1,882,435		166,279	9.7
	外来	267,270		233,418		239,377		5,959	2.6
	計	2,043,733	13.7	1,949,575	12.8	2,121,812	13.3	172,237	8.8
外 科	入院	1,008,250		1,174,066		1,139,148		△34,918	△3.0
	外来	465,242		546,789		597,128		50,338	9.2
	計	1,473,491	9.9	1,720,856	11.3	1,736,276	10.9	15,420	0.9
小児外科	入院	0		0		0		0	-
	外来	717		474		571		97	20.5
	計	717	0.0	474	0.0	571	0.0	97	20.5
呼吸器外科	入院	0		0		0		0	-
	外来	2,410		2,229		3,424		1,194	53.6
	計	2,410	0.0	2,229	0.0	3,424	0.0	1,194	53.6
整形外科	入院	1,341,543		1,494,536		1,478,810		△15,726	△1.1
	外来	151,518		167,148		162,843		△4,305	△2.6
	計	1,493,061	10.0	1,661,684	10.9	1,641,654	10.3	△20,031	△1.2
リウマチ科	入院	0		0		0		0	-
	外来	8,394		10,962		10,650		△313	△2.9
	計	8,394	0.1	10,962	0.1	10,650	0.1	△313	△2.9
脳神経外科	入院	988,464		934,670		929,249		△5,421	△0.6
	外来	76,768		58,907		54,886		△4,021	△6.8
	計	1,065,231	7.1	993,577	6.5	984,135	6.2	△9,442	△1.0
小 児 科	入院	325,069		298,040		289,739		△8,301	△2.8
	外来	168,486		171,957		153,972		△17,986	△10.5
	計	493,556	3.3	469,998	3.1	443,711	2.8	△26,287	△5.6
産婦人科	入院	632,660		645,182		599,193		△45,989	△7.1
	外来	139,887		133,365		152,630		19,264	14.4
	計	772,548	5.2	778,548	5.1	751,822	4.7	△26,725	△3.4
泌尿器科	入院	431,255		482,048		531,377		49,329	10.2
	外来	328,585		350,676		461,093		110,417	31.5
	計	759,841	5.1	832,723	5.5	992,469	6.2	159,746	19.2
皮膚科・ 皮膚腫瘍科	入院	159,280		146,743		192,268		45,525	31.0
	外来	179,461		203,461		232,103		28,642	14.1
	計	338,741	2.3	350,204	2.3	424,371	2.7	74,167	21.2
眼 科	入院	336,983		406,046		396,274		△9,772	△2.4
	外来	216,719		203,448		185,083		△18,366	△9.0
	計	553,702	3.7	609,494	4.0	581,357	3.7	△28,138	△4.6
耳 鼻 いんこう科	入院	196,479		229,287		259,287		30,000	13.1
	外来	99,557		128,574		162,401		33,828	26.3
	計	296,036	2.0	357,860	2.4	421,688	2.6	63,828	17.8
放 射 線 診 断 科	入院	3,531		2,015		1,057		△958	△47.5
	外来	185,060		193,371		192,469		△901	△0.5
	計	188,591	1.3	195,386	1.3	193,527	1.2	△1,859	△1.0
麻 酔 科	入院	1,077		△2		0		2	皆減
	外来	10,031		9,030		12,684		3,654	40.5
	計	11,108	0.1	9,028	0.1	12,684	0.1	3,656	40.5
リハビリ テーション科	入院	4,237		15,715		34,412		18,697	119.0
	外来	50,687		72,828		115,750		42,922	58.9
	計	54,924	0.4	88,543	0.6	150,162	0.9	61,619	69.6
歯 科 口腔外科	入院	137,643		141,302		172,443		31,140	22.0
	外来	88,756		91,521		94,442		2,921	3.2
	計	226,399	1.5	232,823	1.5	266,885	1.7	34,061	14.6
精 神 科	入院	0		0		0		0	-
	外来	0		9		9		0	0
	計	0	0	9	0.0	9	0.0	0	0
救 急 科	入院	132,000		72,505		66,506		△6,000	△8.3
	外来	306,449		294,626		310,722		16,096	5.5
	計	438,448	2.9	367,131	2.4	377,228	2.4	10,097	2.8
計	入院	10,142,937	67.8	10,303,406	67.8	10,856,358	68.2	552,952	5.4
	外来	4,810,099	32.2	4,887,051	32.2	5,056,498	31.8	169,448	3.5
	計	14,953,036	100.0	15,190,457	100.0	15,912,856	100.0	722,399	4.8

区 分		患者1人当たり収入（単位：円、%）				
		令和3年度	令和4年度	令和5年度	対前年度	
					比較増減	伸び率
内 科	入院	53,377	52,512	57,113	4,601	8.8
	外来	22,949	20,301	20,487	186	0.9
	計	30,021	28,497	30,479	1,982	7.0
脳神経内科	入院	57,955	59,958	60,954	996	1.7
	外来	23,652	25,586	29,733	4,147	16.2
	計	38,099	39,183	45,418	6,235	15.9
呼吸器内科	入院	59,997	57,061	63,895	6,834	12.0
	外来	36,073	30,462	25,328	△5,134	△16.9
	計	49,806	44,442	45,425	983	2.2
消化器内科	入院	56,792	60,637	60,786	149	0.2
	外来	31,337	32,946	29,928	△3,018	△9.2
	計	42,650	44,196	41,434	△2,762	△6.2
循環器内科	入院	108,573	93,707	105,123	11,416	12.2
	外来	15,744	15,643	15,195	△448	△2.9
	計	61,303	58,659	63,035	4,376	7.5
外 科	入院	83,506	80,476	79,957	△519	△0.6
	外来	26,070	28,983	32,154	3,171	10.9
	計	49,248	51,438	52,906	1,468	2.9
小児外科	入院	0	0	0	0	-
	外来	3,814	3,098	3,547	449	14.5
	計	3,814	3,098	3,547	449	14.5
呼吸器外科	入院	0	0	0	0	-
	外来	9,565	9,778	10,251	473	4.8
	計	9,565	9,778	10,251	473	4.8
整形外科	入院	74,196	70,354	77,722	7,368	10.5
	外来	8,182	8,202	8,253	51	0.6
	計	40,795	39,922	42,355	2,433	6.1
リウマチ科	入院	0	0	0	0	-
	外来	22,625	28,037	29,500	1,463	5.2
	計	22,625	28,037	29,500	1,463	5.2
脳神経外科	入院	73,981	79,223	77,483	△1,740	△2.2
	外来	15,139	12,649	12,320	△329	△2.6
	計	57,793	60,381	59,833	△548	△0.9
小 児 科	入院	67,907	65,836	71,154	5,318	8.1
	外来	10,530	11,004	10,785	△219	△2.0
	計	23,743	23,320	24,183	863	3.7
産婦人科	入院	81,655	89,846	86,940	△2,906	△3.2
	外来	8,756	8,978	10,984	2,006	22.3
	計	32,563	35,331	36,168	837	2.4
泌尿器科	入院	72,310	76,968	76,292	△676	△0.9
	外来	29,602	28,475	36,670	8,195	28.8
	計	44,529	44,823	50,794	5,971	13.3
皮膚科・ 皮膚腫瘍科	入院	58,047	59,314	60,424	1,110	1.9
	外来	11,559	12,166	13,458	1,292	10.6
	計	18,542	18,242	20,774	2,532	13.9
眼 科	入院	98,046	112,136	123,991	11,855	10.6
	外来	11,273	10,171	9,902	△269	△2.6
	計	24,434	25,800	26,562	762	3.0
耳 鼻 いんこう科	入院	54,216	64,082	67,558	3,476	5.4
	外来	8,091	9,857	11,924	2,067	21.0
	計	18,586	21,529	24,154	2,625	12.2
放 射 線 診 断 科	入院	196,185	201,521	211,452	9,931	4.9
	外来	25,497	28,135	28,476	341	1.2
	計	25,920	28,387	28,611	224	0.8
麻 酔 科	入院	51,269	0	0	0	-
	外来	2,137	1,910	2,403	493	25.8
	計	2,356	1,910	2,403	493	25.8
リハビリ テーション科	入院	105,928	53,635	52,942	△693	△1.3
	外来	6,463	7,391	8,409	1,018	13.8
	計	6,968	8,727	10,417	1,690	19.4
歯 科 口腔外科	入院	75,878	72,203	75,832	3,629	5.0
	外来	7,054	7,204	7,150	△54	△0.7
	計	15,727	15,880	17,237	1,357	8.5
精 神 科	入院	0	0	0	0	-
	外来	0	4,250	8,500	4,250	100.0
	計	0	4,250	8,500	4,250	100.0
救 急 科	入院	171,428	136,032	134,627	△1,405	△1.0
	外来	22,789	25,340	25,115	△225	△0.9
	計	30,840	30,192	29,320	△872	△2.9
計	入院	73,740	72,915	76,170	3,255	4.5
	外来	17,578	17,429	18,026	597	3.4
	計	36,364	36,022	37,615	1,593	4.4

(注) 計は、入院及び外来収益を年延患者数で除したものである。

附表 3  
財務分析表

分析項目	単位	令和3年度	令和4年度	令和5年度	算式	説明
固定資産構成率	%	55.4	50.9	55.8	$\frac{\text{固定資産}}{\text{総資産}} \times 100$	固定資産と資産総額との割合を表すもので、この比率の高いことは公営企業の特徴であるが、低いほうが望ましい。
固定負債構成率	%	63.3	59.8	60.0	$\frac{\text{固定負債}}{\text{負債資本合計}} \times 100$	固定負債と総資本との割合を表すもので、この比率の低いほうが望ましい。
自己資本構成率	%	21.2	24.8	24.1	$\frac{\text{資本金+剰余金}}{\text{負債資本合計}} \times 100$	自己資本と総資本との割合を表すもので、この比率の高いほうが望ましい。
固定資産対長期資本比率	%	55.0	48.7	54.1	$\frac{\text{固定資産}}{\text{資本金+剰余金+固定負債}} \times 100$	固定資産と長期資本（資本金と固定負債との合計）との割合で、資本固定化の程度を表すものであって100%以下であることが望ましい。
固定比率	%	260.6	204.9	231.7	$\frac{\text{固定資産}}{\text{資本金+剰余金}} \times 100$	固定資産と自己資本との割合で、資本固定化の程度を表すものであって、100%以下であることが望ましい。
流動比率	%	372.1	431.0	382.8	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}} \times 100$	流動資産と流動負債との割合で、流動負債の支払能力の程度を表す比率であって、200%以上であることが望ましい。
当座比率	%	361.7	419.5	371.8	$\frac{\text{現金預金+未収金}}{\text{流動負債}} \times 100$	当座資産と流動負債との割合で、流動負債の支払能力の程度を表す比率であって、100%以上であることが望ましい。
現金預金比率	%	263.8	315.8	285.4	$\frac{\text{現金預金}}{\text{流動負債}} \times 100$	現金・預金と流動負債との割合で、流動負債の支払能力の程度を表す比率であって、20%以上であることが望ましい。
自己資本回転率	回	5.0	2.8	2.7	$\frac{\text{医業収益}}{(\text{期首資本金、剰余金} + \text{期末資本金、剰余金}) \div 2}$	自己資本の利用度を表すもので、原則として回転率の高いことが必要である。
固定資産回転率	回	1.1	1.2	1.2	$\frac{\text{医業収益}}{(\text{期首固定資産} + \text{期末固定資産}) \div 2}$	固定資産の利用度を表すもので、収益性の観点からは回転率の高いほうがよいが、健全性の上からいえば回転率の高いのはあまりよくない。
減価償却率	%	9.7	10.2	10.2	$\frac{\text{当年度減価償却費}}{\text{期末償却資産} + \text{当年度減価償却費}} \times 100$	固定資産の償却率を表すものである。
流動資産回転率	回	1.8	1.4	1.4	$\frac{\text{医業収益}}{(\text{期首流動資産} + \text{期末流動資産}) \div 2}$	流動資産の使用、利用度を表すものである。
未収金回転率	回	6.8	6.5	6.7	$\frac{\text{医業収益}}{(\text{期首医業未収金} + \text{期末医業未収金}) \div 2}$	未収金の回収度（回収率）を表すもので、高いほど回転が早く、未収金が未回収のまま残留する期間が短いことを意味する。
総資本利益率	%	18.3	4.2	△1.2	$\frac{\text{当年度純利益}}{(\text{期首負債資本} + \text{期末負債資本}) \div 2} \times 100$	当期の純利益（純損失）と総資本との割合で、企業全体（総資本）の収益性を表すものである。
総収益対総費用比率	%	123.6	105.5	98.4	$\frac{\text{総収益}}{\text{総費用}} \times 100$	当期の総収益と総費用との割合で、営業活動の能率を表すものであって、この比率の高いほうが望ましい。
医業収益対医業費用比率	%	92.6	89.6	93.8	$\frac{\text{医業収益}}{\text{医業費用}} \times 100$	当期の医業収益と医業費用との割合で、営業活動の能率を表すものであって、この比率の高いほうが望ましい。
修正医業収支比率	%	90.7	87.5	91.7	$\frac{\text{医業収益} - \text{他会計負担金}}{\text{医業費用}} \times 100$	当期の医業収益から他会計負担金を除いた額と医業費用との割合で、営業活動の実質的な収益率を表すものであって、この比率の高いほうが望ましい。
利子負担率	%	1.4	1.4	1.4	$\frac{\text{支払利息}}{(\text{期首企業債、一時借入金} + \text{期末企業債、一時借入金}) \div 2} \times 100$	支払利息と負債との割合を表すもので、この比率の低いほうが望ましい。
企業債償還元金対減価償却額比率	%	90.2	83.9	82.3	$\frac{\text{企業債償還元金}}{\text{減価償却費}} \times 100$	企業債償還元金とその償還財源に充当すべき減価償却費との割合を表すもので、この比率の低いことが望ましい。